

「早期発見・早期補導の理念を大切に」



高知市少年補導センター
所長 吉川 佳余

日頃は、子供たちの健全育成や見守り等による非行防止活動にご理解、ご協力をいただき、ありがとうございます。また、各地域、各関係機関、それぞれのお立場で子供たちの安全・安心を見守っていただき、ありがとうございます。

高知市少年補導センターでは、「早期発見・早期補導」を重点目標に掲げ、少年非行対策事業を中心に、日々の街頭補導活動、情報モラル教育、また、児童生徒等自立支援教室等の業務を行っています。「早期発見・早期補導」は、少年補導センターが長年にわたり大事にしている理念です。巡回では、市内公園や量販店等にいる子供たちに積極的に声をかけ、大人の目があることや、自分のことを気にしてくれている大人の存在を感じさせるように心がけています。もし、その時、よからぬことをしようと考えていたとしても、私達が声をかけ、一期一会での出会いであったとしても関係を作ること、で、「やめておこう」と踏みとどまってくれるかもしれないという希望をもっています。そんな都合のいい話なんてないのでは？と思うかもしれませんが、私は自分が補導教員時代に経験しています。

ある公園で、夜、一人でぽつんとベンチに座っていた少年に声をかけました。口数は多くない少年でしたが、その公園で小一時間ずっと会話をしました。体からは、タバコの匂いもしていたので、喫煙しているんだろうと推測はできましたが、1人でいることのほうが気になり、必死に話題を探し、薄暗い街灯のもとで関係づくりに努めました。その日は、補導行為もなかったのもので、帰宅指導をして終わりました。

後日、また、公園で同じ少年に出会いました。その時は、数人の友達と一緒にいて、前回出会った時のような暗い、重い空気はなかったので、安心して、「ほんならね」とあいさつの言葉をかけてその場を離れようと思いました。すると、その少年が駆け寄ってきて、「この前は、話聞いてくれてありがとう。本当は、あのまま家に帰らず家出しようと思いついたがやけど、やっぱり、それはいかんなんて思ってちゃんと帰った。こんなつまらん自分みたいな人間のことを補導の人が心配してくれるとか思ってなかったきよ。」と言ってくれました。もちろん、こんな涙の出るような感動話ばかりの街頭補導ではありません。

でもその時、「ここに、私達が行っている補導活動の意味があるんだ。」と思ったことを昨日のこのように覚えています。

注意・指導する「補導」ではなく、非行防止というのは、人と人とのつながりの中で生まれるあたたかさを感じさせることが重要なのではないかと考えます。だから、私達少年補導センターは「早期発見・早期補導」という理念のもと、少年たちとの出会いを求め、街頭補導活動に出ています。声をかけることだけを見ると小さな歩みかもしれませんが、少年たちの心に与える影響や効果はとても大きいものだと思っていますし、その瞬間だけでも、少年たちが心を許せる「居場所」だと感じてもらいたいと願っているのです。

今後も、地区補導委員の方々をはじめ、学校や関係機関の方とのつながりを大事にして一人ひとりの子供たちの健全育成に全力で取り組んでまいります。